

ロシアにありがとう

山形県 第十小学校

4年 渡辺 時妃

私が「小さな親切」と聞いて思い出すことがあります。それは、私が4才のとき、ロシアに住んでいたころのことです。

その日私は、お父さんのしょく場のお医者さんにみてもらうため、お母さんと駅に向かっていました。とつぜん雨がふり出し、お母さんと走り出したとき、私は、段差につまずき、転んでしまいました。あごを思いっきり切って、血がたくさん出てきました。すごくいたくて泣いていた私は、お母さんにだっこされて、電車まで連れていってもらいました。電車はとてもこんでいました。なんとか中に入って、少ししたときです。

「あそこにすわりなさい。」

と、おばさんが声をかけてくれました。そのおばさんは、少しはなれたところから、わざわざ席をゆずりに来てくれたのです。

そのおばさんは、ナターシャといいます。ナターシャに会うのは2回目でした。ロシアに引っこしたばかりのころ、近所の公園で話しかけられ、ロシアのことをたくさん話してくれました。電車で席をゆずってもらってからも、街でときどき見かけました。そのたびに、

(やさしくしてくれたおばさんだ。)

と心で思っていました。

ロシアでは、ナターシャじゃなくても、わかい人からおじいちゃんおばあちゃんまで、子どもに席をゆずってくれたりします。どんなに行列でも、トイレの順番は子どもを先頭にしてくれたり、電車で近くにすわった人からおかしをもらったりしました。

男の人が、知らないおばあちゃんの荷物を持ってあげたり、階段でベビーカーを運んであげたり、助けてあげるところもよく見かけました。ようち園では、最初のころは、全くロシア語がわからなかったし話せなかったけれど、いっしょに遊びにさそってくれたり、ロシアのいろんな場所を教えてくれたりして、家族の中では、私がいちばんロシア語が話せるようになりました。

日本に帰ってきてからは、コロナのこともあり、人とかかわる機会も少なくなりました。電車で同じようにこまっている人がいたら、(ナターシャのように動けるかな?)と考えてみたけれど、私は動けないと思いました。

ゆずってあげたいけれど、ことわられたらどうしようとか、周りから変な目で見られないかなと思うと、だんだん不安になってしまいます。ナターシャにゆずってもらったときは、いたいことしか考えてなかったけれど、今思うと、とてもすごいことをしてもらったのだと思います。

最近のロシアのニュースを見ると、むねのおくがズキズキします。ロシアには、小さいけれどすごい親切がたくさんあって、本当はとてもやさしい国です。ロシアにいたころは、日本にあこがれて、早く帰りたいと思っていたけれど、今はいつかまたロシアに行って、親切を返したいです。

そして、ナターシャに、「ありがとう。」と伝えたいです。